DX研修とは？

～行うべき理由や導入のポイントを解説！～

デジタル・ナレッジ

CONTENTS

目次

■ ■ 第一章

DXとは／DXを進めていく上での課題／DX人材とは／DX人材に求められる役割とスキル

■ ■ 第二章

DX研修とは／DX研修を成功させるための4つのポイント／DX研修の進め方

■ ■ 第三章

DX研修にはeラーニング活用がおすすめ／まとめ

はじめに

デジタル技術の急速な進化に伴い、あらゆる組織においてDX推進が必要不可欠となっています。

そのなかでDX研修は、企業がデジタル時代における成功を目指すうえで欠かせない取り組みです。

このホワイトペーパーでは、DXを進めていく上での課題やDX人材の在り方を踏まえ、DX研修の重要性や成功させるためのポイント、実際の進め方について解説していきます。

第一章

～DXとは／DXを進めていく上での課題／DX人材とは／
DX人材に求められる役割とスキル～

DXとは？

DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、ITの浸透によってイノベーションを実現し、社会をより良い方向に変化させていくことを意味します。

それでは、企業におけるDX推進の意義とは何でしょうか？

企業がDXによって目指すべきものは、デジタル技術やデータの利活用によって、製品やサービス、ビジネスモデル、さらには企業の組織風土・文化までも変革することです。その影響は、単なる業務効率化やコスト削減にとどまらず、売り上げ拡大や競争優位性の確立につながります。

- ・コスト削減やリードタイム短縮など従来の業務を効率化
- ・これまでになかったビジネスモデルや商品・サービスの創出
- ・企業文化や働き方の変革による競争優位性の確立

つまり、企業におけるDX推進とは、デジタルテクノロジーの活用によってビジネスモデルや企業文化そのものを大きく変革し、競争上の優位を確立することを目的としています。

すでに、DX化により既存のビジネスモデルを変革させ、急成長を遂げた世界的企業も出てきていますが、企業規模に関わらず、こうした取り組みなしに今後の事業拡大は見込めません。あらゆる企業で、さらには行政機関においてもDX推進が求められています。

DXを進めていく上での課題

DX推進のためには高度なデジタル人材が必要不可欠です。しかしながら、急速なデジタル化によってデジタル人材の需要が高まる一方、供給が追いついていません。

独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が発行する「DX白書2023」によると、DX人材が不足していると回答した国内企業は83.5%(2022年度)に達しています。このうち「大幅に不足している」は49.6%と半数近くに上ります。この数値はアメリカと比較しても極めて高く、人材不足はDXを推進する上での大きな課題となっています。

経済産業省も、2030年には最大で約80万人規模でDX人材が不足するという試算を公表しています。このようにDX人材の確保、育成が急務となるなか、社内でDX人材を育成する取り組みを進める企業が増えています。

出典:独立行政法人情報処理推進機構「DX白書2023」
<https://www.ipa.go.jp/publish/wp-dx/gmcbt8000000botk-att/000108041.pdf>
(2024年4月25日参照)

DX人材とは

ところで、先程から出てくる「DX人材」とは、具体的にどのような人材を指すのでしょうか？

DX人材とは、デジタル技術を用いてビジネスの変革を推進することができる人材のことです。そのため、専門的な技術や知識だけでなく、ビジネスに関する深い理解やコミュニケーション能力、問題解決能力も必要とされます。また、デジタルテクノロジーは急速に進化しているため、常に新しいスキルや知識を学び、成長し続ける意欲や柔軟性も必要です。

これらは一般的なDX人材の定義となりますが、DX推進状況や業界・業種によっても求められる知識やスキルは異なってくるため、企業はまず、自社にどんなDX人材が必要なのかを定義する必要があります。

DX人材に求められる役割とスキル

DX人材に求められる役割とスキルについて、もう少し詳しく見ていきたいと思います。ここでは具体的に5つ挙げて解説します。

①テクニカルスキル

DX人材には、デジタル技術やツールに関する高度なスキルが必要です。例えば、プログラミング言語の知識、クラウドコンピューティング、ビッグデータ処理、人工知能(AI)、機械学習などが含まれます。これらのスキルを習得することで、DXプロジェクトの実装や改善をリードすることが期待されます。

②問題解決能力

DX推進において、課題を解決するための取り組みは必要不可欠です。そのためDX人材には、複雑な問題を理解し、創造的かつ効果的な解決策を提案する能力が求められます。さまざまなデータや情報を分析し、ビジネス上の課題を明確に把握し、効果的な戦略を立てることが重要です。

③コミュニケーション能力

DXプロジェクトは、複数の部門やチームが関与する社内、あるいは社外横断的な取り組みになります。そのためDX人材には、異なるステークホルダーやチームメンバーと円滑にコミュニケーションを図る能力が求められます。チーム力を高め、プロジェクトの目標を達成するために必要な協力関係を築くこともDX人材に求められる役割です。

④ビジネス遂行能力

DX人材には、ビジネスに関する深い理解と洞察力が求められます。デジタル技術やイノベーションを組織の目標や戦略にどのように結びつけるかを理解し、提案する能力が必要です。また、市場や競合状況、顧客ニーズなどのビジネス環境に関する情報を継続的に収集し、分析する役割も担います。

⑤柔軟性と適応能力

デジタルテクノロジーやビジネスを取り巻く環境は急速に進化しているため、DX人材には常に新しい技術や手法を学び、変化する状況に対応する柔軟性と適応能力が求められます。また、失敗から学び、フィードバックを受け入れる意欲や姿勢を持つことも必要です。

第二章

～DX研修とは／DX研修を成功させるための4つのポイント／
DX研修の進め方～

DX研修とは

前述したように、DX人材不足の現状を受けて、社内でDX人材を育成する企業が増えています。これがDX研修と呼ばれるものです。

DX研修は、組織内のメンバーに対してDXに関する知識やスキルを習得させるための教育プログラムです。DX研修はおもに次の2つに大別されます。

1. リテラシー研修

DX研修においてまず重要となるのが、リテラシー研修です。リテラシー研修は、社員1人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになることがねらいです。そのため、対象は全社員で、デジタル技術に対する基本的な理解、デジタルツールやデバイスの使い方などを学びます。

2. 専門スキル研修

リテラシーを身につけたあとは、各部門で実際にDXを推進するための専門スキルや実践力を習得する研修に進みます。この研修は部署ごとや、選抜メンバーに対しピンポイントで行われるのが一般的です。研修内容は、業界や職種に応じてカスタマイズされ、最新の技術や業界のトレンドに基づいて設計されます。

DX研修を成功させるための4つのポイント

ここからは、効果的なDX研修を実施するために留意しておきたいポイントや、取り組み前の注意点を紹介します。

Point 01

経営が主導的な役割を

DX研修を円滑に進めるためには、組織全体を巻き込んだ取り組みが必要不可欠で、非常に大きなパワーを要します。そのため、決定権がある経営層が我関せずでは、プロジェクトはうまくいきません。経営トップがDX推進を企業方針として定め、主体的にDX研修を進めることが肝要です。必要に応じてDXを推進するための部門を設置するなど、組織体制の整備もポイントとなります。

Point 02

経営戦略・ビジョンの明確化

DX研修を効果的に実施するためには、最初に組織のDX戦略や目標を明確に定義することが重要です。デジタルテクノロジーの活用によって、どの事業分野でどのような価値の創出を目指すか、そのためにどのようなビジネスモデルを構築すべきか、経営戦略やビジョンを明確に提示します。経営層を含む全社でDXを理解し、概念・言語の共通化を図ることもその一歩となります。

Point
03

自社レベルの現状把握

次に必要なのは、DX活動において自社がどのレベルなのかを把握することです。レベルを把握したうえで、自社が目指すDX人材に必要なスキルは何か、どんな研修を設計すべきか、どういったDXリテラシーを醸成すべきかを選定していきます。事前に、DXリテラシーやスキルを可視化するアセスメントサービスを利用して現状を数値化するというアプローチも効果的です。

Point
04

当事者意識の醸成

DX研修の対象はIT技術者だけではなく、全社員ですが、なかには「DX研修は一部のデジタル人材向けで自分には関係ない」と、取り組みに消極的な社員がいるケースも見受けられます。とくに中小企業では、デジタル技術の導入や活用が遅れているケースが多く、DXによって業務のプロセスが激変することに不安や抵抗感が大きい傾向があります。前向きに取り組んでもらえるよう、DX研修の意義や社員側のメリットもしっかり説明し、受け手の当事者意識を醸成したうえで納得感をもって進めることがDX研修の成功につながります。

DX研修の進め方

上記のポイントを押さえたうえで、具体的なDX研修の進め方を「事前準備」「実施」「評価」の3フェーズで確認していきましょう。

事前準備
フェーズ

実施
フェーズ

評価
フェーズ

事前準備フェーズ

■目標設定

社内のニーズや課題を把握し、どのような DX 人材を育成したいのか、どこまでのリテラシーレベルまで育成するのかといった目標設定を行います。ゴールイメージをしっかりと設計しておくことで、自社にとって本当に必要なDX研修を実施できます。

■プログラム設計

次に、目標に合った講師やプログラム、教材を選定します。研修会社によっては、ヒアリングを行い自社課題に沿った研修設計をしてくれるところもあります。自社に適した研修設計になっているか、参加者にとって意義ある内容となっているか、検証しながら進めます。

■カスタマイズ化

研修プログラムは普遍的な内容であればあるほど、受講者側のモチベーションは低下します。実際の業務やプロジェクトに活かせるような実践的な内容を取り入れることが重要です。具体的な業務に沿ったリアルなケーススタディなど、自社に合わせてプログラムのカスタマイズを行うことで、理解を深めやすく、より効果的な研修が実現できます。

■実施計画立案

プログラムが決まったら、運用計画に進みます。研修のスケジュールや参加者の選定、会場の手配など、具体的な実施計画に落とし込みます。

実施フェーズ

■リテラシー教育

効果的なDX推進のため、最初に実施するのが全社的なリテラシー研修です。対象が全社員になるため、リテラシー教育ではe ラーニングを活用して効率的に研修を進めるのが一般的です。リテラシー研修の実施後、ポテンシャルやスキル習熟度をアセスメントして、次の専門スキル研修に進む社員を選抜する場合があります。

■専門スキルの習得

次に必要なのは、DXを推進する際に必要な専門スキルや実践力の習得です。例えば、プログラミング言語の学習、データ分析の手法やツールの習得、プロジェクト管理のスキル向上などが含まれます。実務に即したトレーニングやプロジェクトベースの学習を通じて、実際の業務に役立てられるスキルの獲得を目指します。

評価フェーズ

■効果検証・改善

研修プログラムを実施した後は、フィードバックを受けて効果を定期的に評価し、継続的な改善に生かすことが重要です。参加者の意見や感想をもとにプログラムの改善点を洗い出し、次回以降の研修の質向上につなげます。

■実務への適用・活用支援

研修でインプットした内容を実践に生かしてはじめてDX研修の意味があります。学んだ内容を実務へ適用・活用できるよう、フォローアップやコーチングを提供し、社員の成長を継続的に支援しましょう。

第三章

～DX研修にはeラーニング活用がおすすめ／まとめ～

DX研修にはeラーニング活用がおすすめ

DX研修の実施には、社員が業務にあわせて自分のペースで効率的に学べるeラーニングの活用が最適です。

全社的な展開となるDX研修では、企業が社員の学習進捗を把握しておく必要があります。eラーニングに使われるLMS(Learning Management System:学習管理システム)なら、社員1人ひとりの学習進捗や理解度、獲得スキルを可視化できるため、それに基づいた適切なフォローやフィードバックを通じて、効果的なDX研修を実現することが可能です。

eラーニングを活用したDX研修の実施を検討されている方、自社にあったより効果的な導入をお考えの方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

デジタル・ナレッジならeラーニングを活用したDX研修をサポート！

デジタル・ナレッジのLMS『KnowledgeDeliver』は、導入実績2000以上をほこる国内有数の統合型eラーニングプラットフォーム。常に機能拡張をおこない、新しい学習環境に対応しつつけると共に、カスタマイズ開発に強みをもち、お客様が目指されるDX推進の実現を力強くサポートします。

DX研修に最適！ KnowledgeDeliverの特長

- ☑教材作成・学習・運用管理まで、これ1つでオンライン学習環境を整備
- ☑動画教材作成も、既存のoffice資料の教材化もWebベースで簡単
- ☑従業員1人ひとりの学習進捗・理解度・獲得スキルを明確管理
- ☑従業員がマイページで自身の学習進捗等を確認
- ☑社内eラーニングだけでなく、外部ウェビナーも含むあらゆる学習履歴を一元管理
- ☑人事データベースやタレントマネジメントシステムとの連携
- ☑次世代の学習証明「オープンバッジ」対応、獲得したスキルを世界標準で見える化
- ☑ニーズに応じた柔軟なカスタマイズ開発

詳細・導入事例はこちら：<https://www.digital-knowledge.co.jp/product/kd/>

KnowledgeDeliverが選ばれる理由

選ばれ続ける8つの安心

これ一つで完結

eラーニングに必須の「教材作成」「学習」「運用管理」機能を標準搭載。他のツールをご用意いただく必要がありません。

マルチデバイス対応

PCはもちろん、スマートフォン、タブレットでも学べるマルチデバイス対応。スマホで動画配信も可能です。

年4回のバージョンアップ

お客様のニーズやトレンドに合わせた新機能追加、最新クライアント環境に対応。新しいLMSを提供し続けています。

2000以上の導入実績

企業・官公庁・医療機関など実績多数。売上拡大も効率化もコスト削減も、各分野に精通した専門部署にお任せください。

ご要望にあわせたカスタマイズ

課題や目的が違えば導入すべきeラーニングの形も異なります。お客様の要望にあわせた柔軟なカスタマイズが強みです。

豊富な導入形態・大規模運用

ASP、オンプレミス、DKクラウド、パブリッククラウド等、豊富な導入形態をご用意。数十万名様向けの大規模運用にも対応。

安心の運用サポート

運用ご担当者様や受講者様向けにサポートセンタを設置。電話、メールによるサポートでより円滑な運用をサポートいたします。

個人情報保護・セキュリティ対策も万全

KnowledgeDeliverを基盤としたASPサービス「ナレッジデリ」では「ASP・SaaS安全・信頼性情報開示認定」を受けています。

まとめ

今後、DX人材の確保はますます困難になると予想されます。そのため、大手企業だけでなく、中小企業にとってもDX研修が当たり前となる時代がやってくるのは確実です。DX研修は、企業でイノベーションを生み出す基盤をつくり、組織全体がDXに向けて一体となって取り組むために欠かせないものです。

この機会にぜひ自社の課題を洗い出し、DX研修の導入を検討してみてはいかがでしょうか。

皆さまからのご連絡をお待ちしております

メールで質問

infoadmin@d-k.jp

電話で質問

導入の
ご相談 **050-3628-9240**

その他 **03-5846-2131**

サイトを見る

デジタル・ナレッジ

検索